

教科	学年科目	集計結果の分析	来年度に向けての課題	
国語	1	現代の国語	他者の考えを知り自らの考えを深める機会を通じ、既習事項に関連づけ、生徒の授業内容における理解度を高めることが出来た。	授業の中で、学習のねらいを示し、生徒が見通しを立てられるような授業展開に努めていく。
	1	言語文化	授業を通して学んだ知識が、別の場面で関連づけられ、定着していく様子がうかがえる。	生徒が目的意識を持って授業にのぞめるように課題を提示しながら、復習と応用に努めたい。
	2	論理国語	生徒自身が自分の考えをまとめ、課題解決しているという実感が前期よりも0.14ポイント向上したことは、生徒の授業参加の実感が出てきたと考えられる。	未だ、身についたこと・できるようになったことの点数が出ないため、短期的に実感が出る取り組みや言葉がけを大切にしていきたい。
	2	文学国語	前期よりも3点台に到達した項目が増えた。特に「授業の在り方」3項目が3点台に届いたことは、生徒にねらいが届き始めた成果だと考えられる。	できたことの実感や、学んだことに関連付けが進んでいない様子なので、授業の組み方にもう少し工夫を加えていく必要がある。
	2	古典探究	前期よりもほとんどの項目で評価が向上した。「授業の在り方について」の3項目が向上したことは、生徒に授業のねらいが伝わりやすくなったと考えられる。	授業の中で身についたこと、できるようになったことの実感は未だ低いままなので、生徒の実感を大切にできるよう努めたい。
	3	現代文B	文章読解力を高めるため、問題演習を中心に授業を行った。さらに多様な問題を扱うことで、論理的な思考も深まりが見られた。	どのような進路選択をしても、文章を読む力は必要であることを早い段階から理解させるとともに、基本から時事問題まで幅広く教材を扱う必要がある。
	3	古典B	前期の授業内容に比べ、より知識の活用に重きを置いた演習を中心とした授業を展開した。読解力と情報処理能力のバランス取得に難しさを感じた生徒が多かったように思われる。	読解力の向上や、単発の古典文法を問うに留まらず、複数ある選択肢から正解を導き出す情報処理能力の向上に努め、生徒が「点数がとれた」実感を多く経験できる場を増やしたい。
地歴公民	1	歴史総合	担当者で打ち合わせしながら、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会の確保、自らの考えを広げ深める活動、知識をもとに、解決方法を考える学習方法を工夫してきた。概ね理解している生徒が多いが、低評価も見られる。	複数の教員が担当する科目なので、単元の目標と身に着けたい力を明確にして、授業改善に取り組む。
	1	公共	前期よりもほぼすべての項目で評価が向上した。特にできるようになった実感や既習事項との関連付け、また新たな考え方を知るなどの項目がアップしたことは、さらに今後の学習の発展につながると思われる。	単元の中で他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める項目が3点に到達していないので、今後は様々なアプローチにより、生徒の知的欲求を満たせるような工夫をしていきたい。
	2	地理総合	前期よりもすべての項目で評価が上がっていた。特に単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会があることを実感してもらえたようである。	今までなんとなく理解していたことを論理的・構造的に考える中で、他者との考えの相違や共通点を見出すことができるような授業を展開することで、生徒の理解度を高めていきたい。
	2	日本史探究	ペアワークを通して考えを深めることができたり、既習事項と関連づけて学んだことを理解できたりと、学習が進む中で手ごたえを感じる生徒が増えていると、読み取ることができた。	学習に真面目に取り組む一方で、身に付いた、できるようになったと感じている生徒は依然として増えていない。学習に向かう姿勢だけでなく、深い理解にたどりつくための確かな学力をつけられるよう、演習の機会を増やしていきたい。
	2	世界史探究	他者との交流の中で、知識を整理したり深めていく活動をした結果、前期よりも評価が上がった。	単元の意義や重要な点を理解することにより、内容を深めることができるのと同時にできた実感するものであると考えている。
	3	世界史B	他者の考えを知ることで自分の考えを広げたり、また解決方法をまとめたりする機会を設けることで、授業で学んだことを既習事項に関連付けて理解することができるようになった。	歴史の授業は範囲が膨大なので、今後も授業で学んだことを既習事項に関連付けて理解することができるように、歴史の流れやつながりを意識させる授業展開をしたい。
	3	発展日本史	前期より評価が下がった項目もあるが、授業の在り方や理解度については向上した。丁寧に単元の振り返りを行ったり、項目終了ごとに小テストを実施した結果が出ていると思われる。	授業のテーマ設定やグループワーク等の演習を増やすことで、より深い学びや幅広い知識の定着に努めたい。
	3	地理B	前期より自分の考えをまとめたり発表する機会の評価が下がった。今後の授業でグループ活動・発表を取り入れて改善に努めたい。	よりグループワークを増やし、生徒同士で意見を共有し、知識を用いた課題解決を進められるように努めたい。 また、ICTを積極的に活用し、より効率的に意見交換ができる場を作りたい。
	3	世界史研究	前期とほぼ同様の評価である。単元の目標を提示し、その達成のために、生徒は積極的に学んでいる。評価の平均点は前期と変わらないが、「自らの考えを深める」、「知識を基に解決方法を考える」の部分は高評価が多い。	今後も引き続き、目標を明確にして、その達成のための主体的な学習に向けて授業改善をすすめる。
	3	日本史研究	前期に比べ授業で身についたことを実感ならびに他者の考え方を知る項目での評価が上昇した。教科書以外の書籍等を授業で用いたことが、他者の考えを知る項目の上昇につながったと考えられる。	引き続き、既習事項と関連付けたり、自身の考えをまとめて広げるなどの機会をより多くつくっていききたい。
3	地理研究	前期より自分の考えをまとめたり発表する機会の評価が下がった。今後の授業でグループ活動・発表を取り入れて改善に努めたい。	よりグループワークを増やし、生徒同士で意見を共有し、知識を用いた課題解決を進められるように努めたい。	

数学	1	数学Ⅰ・A	概ね良好な結果であった。しかし、毎時間の授業や単元のねらいや振り返りの機会についての項目がやや低くなってしまった。	毎時間の授業の中で、何を学ぶか、どのように学ぶか意識させながら授業改善に取り組んでいく。
	2	数学Ⅱ	全ての項目が前期よりも高くなっていった。特にできるようになったことを実感する項目が高くなっていることから、前期よりも生徒の意欲を引き出すことができたと思う。	前期のうちから考えを共有する機会を設け、生徒の理解を深めるように努める。
	2	数学B	全ての項目が前期よりも高くなっていった。特に既習事項との関連付け、できるようになったことの実感の項目が高かった。	他者と意見を共有する機会を前期のうちから多く設け、自らの理解を深められるように努める。
	3	数学Ⅲ	入試問題に取り組んだため、ねらいや振り返りの項目が低くなってしまった。	受験勉強のスケジュールを意識した、早目の授業進捗と、対話的な学びの両立の方法を図る。
	3	数学探究ⅠAⅡB	概ね良好な結果を得られたが、自らの考えを広げ深める項目で低くなってしまった。	受験問題にも取り組みながら、自らの考えを広げ深められる授業を行っていく。
	3	発展数学ⅡB	すべての項目において高い評価が得られたが、生徒の取組の項目では若干低かった。	受験に向けて生徒の意欲を高められるよう、さらに工夫していく。
理科	1	物理基礎	分野が変わったこともあり、各項目の評価は上がっていた。	分野によって差がでないように授業を工夫したい。
	1	化学基礎	他者の考えを知り、自らの考えを広げる機会が少なかったため、自らの考えを広げ深めることができなかった。	グループ学習やペアワークを増やすことで他者の考えを知り、自らの考えを広げ機会を多くしていきたい。
	2	物理基礎	1つの内容をじっくり取り組む活動を取り入れて、考える機会、観察する機会を多く取り入れたため、出来るようになったことを実感する機会が少なかった可能性がある。	できたことを実感できるような機会を増やすこと、同時にコミュニケーションを大事にした活動を取り入れたい。
	2	化学基礎	他者の考えを知り、自らの考えを広げる機会が少なかったために自らの考えを広げ深めることができなかった。	グループ学習やペアワークを増やすことで他者の考えを知り、自らの考えを広げ機会を多くしていきたい。
	2	生物基礎	前期に比べ、各項目とも評価が上がっている。生徒が主体的に考え、周囲と意見を共有する機会を多く取り入れたためであると考えられる。	一方的な授業にならないよう、生徒どうしが学び合い理解を深められる活動を取り入れていきたい。
	3	物理＋発展物理	生徒たちの進路実現に向け、問題演習を多く取り入れた。生徒同士のコミュニケーションを大事にしてきたことが、今回の評価につながったと考える。	受験に偏り過ぎず、科学的なものの見方、考え方、分析する力を伸ばせるような授業をしていきたい。
	3	化学＋発展化学	前期と比較して、自己の考えを深めたり、授業で得た知識を活用する項目について評価が上がった。後期の問題演習の時間において、知識を活用する場面が増えたことが生徒の印象に残ったためであると考えられる。	既習事項が少ない前期のうちから、学んだことを活用して問題解決を行う機会を増やしていきたい。また、実践的な問題解決の場として、実験を多く取り入れていきたい。
3	生物＋発展生物、 文型選択(生物)	授業への取り組みはよく、概ね授業の内容に関する理解はできているようである。前期と比較して、あまり大きな変化はみられなかった。	引き続き、復習や振り返りを含めた学習習慣の定着を促していきたい。また、既習事項と関連付けたり、自身の考えをまとめて広げるなどの機会をより多くつづけていきたい。	

保健 体育	1	体育	できるようになったことを実感できている。しかし後期の持久走では、課題について自分の考えをまとめる時間がとれなかったため、特に4の評価の生徒が減ってしまった。	生涯スポーツとして関わる競技を見つけるために、特に持久走ではどのように卒業後の生活に取り入れられるか考えられるように、指導方法を改善していきたい。
	1	保健	前期と比較して、ほぼすべての項目でポイントが上がっている。授業で得た知識をもとに自分の考えをまとめたり、課題解決のに向けて考える時間を確保したため、自分の生活と関連付けることができているのではないかと考える。	飲酒や喫煙など生徒が身近に経験していないことや、性感染症などの知識がない内容の授業で人ごとに捉えている生徒も見受けられるため、自分事として捉えられるように授業改善をしていきたい。
	2	体育	ほとんどの項目で前期を上回る結果となった。長距離走で精神的にはつらい部分もあったかと思うが、真剣に取り組んだ結果、達成感を味わうことにつながったように思う。	授業内での自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面の設定を積極的に行っていきたい。
	2	保健	前期と比較して評価はとてよくなっているように感じる。教員がICTを活用し、良い授業形態や取り組みを自分の授業に取り入れた結果のように思う。	ICTを活用しての授業の広がりを感じているので、生徒が主体的に考え表現できるような授業を発展させていきたい。
	3	体育	前期と比較してほぼ同様の評価となっている。授業への取り組みもよく、授業へ向かう姿勢が定着してきたのではないかと感じる。	できるようになる実感をもたせることを大切にしながら、他者との交流をはかったり、自らの考えを広げる機会を多くつくっていきたい。
芸術	1	音楽Ⅰ	授業で展開する事項のねらいをしっかりと理解させ、習得したことの応用ができるようになると、より関心が高まりモチベーションを生むようだ。表現方法としてとりくんだものはできるようになったと感じている生徒が多いようだが、さらに意欲が感じられ、次への目標が具体的に持てるとういと感じた。	動機付けと目標をしっかりと理解させ、意欲をもてるような提示の方法を工夫したい。
	1	美術Ⅰ	前期と比べほぼ全ての項目で評価が上がっていることから、前期よりも落ち着いて意欲的に学習に取り組めたようである。	単元ごとのアンケートや興味のあることなどについて教科独自に調査を行い、取り扱う内容の再検討をする。
	2	音楽Ⅱ	表現の課題や演習から、必要な技術はほぼ身についたようだが、学習のねらいと振り返りを効果的にやり、得られた技術と表現力を使って、さらなる表現に向けての意欲をかきたてるまで至らなかった。	表現のための技術の習得にとどまらず、鑑賞等をうまく活用し、自己表現の質を深められるような経験をさせ、意欲を高められるような指導を工夫したい。
	2	美術Ⅱ	前期と比べてほぼ全ての項目で評価が上がっていることから、より意欲的に主体性を持って課題に向き合う姿勢が醸成されたことが伺える。	昨年強化している題材をさらに発展させ、生徒の取り組みや考えの変容を見取る。
	3	自由選択 (ソルフェージュ)	受講者の能力に差があり、課題が適切でなかったのか、課題への取り組みにたいする満足度が十分ではなかったようだ。少人数の展開であったので、多少難しくても、引っ張っていてもよかったのかもしれない。	受講者の能力の見極めに応じた課題の設定の仕方を工夫し、初心者に対するフォローを効果的にやる方法の工夫をしたい。
	3	自由選択(素描)	全ての項目において良好な評価が得られた。生徒主体で学び合い、経験や能力を高める場が作られていた。	今後も生徒主体で学びが深まるよう課題や制作環境を工夫する。
英語	1	英語コミⅠ	すべての項目で概ね良好な評価が得られた。特に他の生徒とのコミュニケーションの項目で高い評価を得た。	授業内容をもとに生徒が自立的に学習するような授業を展開することが必要であると感じた。
	1	論理表現Ⅰ	全体的に概ね良好な評価が得られた。授業で学んだことを既習事項に関連付けて理解することができるようになった。	文法指導が含まれ、生徒自身の考えを表現する場が少ないため、学習した文法事項を使って表現する活動を設定していきたい。
	2	英語コミⅡ	他者の考えを知り自らの考えを深める機会を通じ、既習事項に関連づけ、生徒の授業内容における理解度を高めることが出来た。	生徒が主体的に取り組むことができるように働きかけていきたい。
	2	論理表現Ⅱ	前期よりもねらいを理解したり振り返る機会が多くなった。	生徒が表現できるように指導していきたい。
	3	コミ英Ⅲ	後期の評価も概ね良好であるが、前期の評価よりも若干下がっている。生徒の学力、取り組み、理解度の差の開きを反映しているとも考えられる。	教科書等を利用した日々の授業の内容と卒業後の進路実現のための学習とのバランスが課題である。
	3	英語表現Ⅱ	3、4の評価が多く概ね良好な評価であったが、授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感できる場面が少なかったと考えられる。	授業内容や指導方法を改善し、生徒が解決方法について考える場面を確保し、自分の考えを表現する力を養う。
	3	発展英語	全体的に良好であったが、他者との考えを共有する機会が少なかったと思われる。	問題演習に偏りすぎず、ペアワークや問題の解答に対して議論をする時間などの時間を取ることも必要である。
家庭	2	家庭基礎	前期に比べ、各項目ともポイントが上がっている。後期に入り、実習など体験的学習が充実したことが原因と考えられる。	今後も、体験的学習の機会を増やせるよう、学習内容を精選していく。
情報	2	情報Ⅰ	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会が少ないと感じている生徒が多かった。	毎授業で何を学びどのような能力を身につけていくべきかを明確に提示していきたい。
	3	社会と情報	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が減ったと感じる生徒が増えた。個人で考え解決する課題が多くなったことが原因と考えられる。	個人で考え導き出した解答や意見を共有していく機会を増やしていきたい。